

3 節 評価の観点と望ましい評価のあり方

外国語活動の学習評価は、『小学校児童指導要録』に、各学校で評価の観点を定めて、児童の学習状況における顕著な事項や、児童にどのような力が身についたか、どのような理解が深まったかなど、評価を文章で記述するようにとある。

学習指導要領（2017 年告示）においては、各教科を通じて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点で評価するとある。語彙、表現や文法などの知識の習得に主眼を置くのではなく、それらを活用して実際にコミュニケーションを図ることができるような知識や自律的・主体的に活用できる技能を評価したり、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したりするなど、伝え合うことができているかに留意して評価を行うことになる（表 11.1 参照）。

表 11.1 外国語活動と外国語科の評価規準

| | 知識・技能（Ⅰ） | 思考・判断・表現（Ⅱ） | 主体的に学習に取り組む態度（Ⅲ） |
|-------|--|--|--|
| 外国語活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。 ・ 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気づいている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友だちに質問したり質問に答えたりして表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや、言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知り、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・ 言語の大切さ、文化の共通点や相違点、さまざまな見方や考え方があることに気づいて、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身につけている。 ・ 外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）に気づいている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ なじみのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りのことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや、言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、他者に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・ 外国語の学習を通じて、言語や、多様なものの見方や考え方の大切さに気づき、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

また、「外国語を用いて何ができるようになるか」という観点から単元全体を見通した上で、単元目標と年間指導目標とが有機的につながるよう、単元・年間を通してすべての

観点から総合的に評価することが大切である。

例えば、将来の夢・職業を話す活動であれば、具体的な評価規準はそれぞれ、以下の通りになる。

- ・ **知識・技能**：職業を表す語や、就きたい職業を表す表現が分かる。
- ・ **思考・判断・表現**：将来の夢や職業について簡単な語句や基本的な表現で話される英語を聞いて、その概要をとらえたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。また、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで、その意味が分かり、自分の考えや気持ちを伝え合ったり、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。将来の夢や職業について発表したり、相手のなりたい職業について聞いてその理由についても考えることができる。
- ・ **主体的に学習に取り組む態度**：将来の夢などについて、伝えようとしたり、書かれたものを読んだり書いたりしようとする。

上記の 3 つの観点に沿って授業中に評価を行い、学習の状況を総括して評定（3 段階）を行う。例えば、**知識・技能**や**思考・判断・表現**は、行動観察、ワークシートやテキストの記述分析、振り返りカード、CAN-DO 評価やパフォーマンス評価で、**主体的に学習に取り組む態度**は、行動観察、ワークシートやテキストの記述分析、振り返りカードなどで記録に残す評価を行う必要がある。また、児童生徒の学習改善と、教員の指導改善につなげ、児童の学びを「動機づけ」「方向づけ」そして「意欲化をはかる」ことが大切であり、児童に目標を意識させ達成感を持たせるための評価や、よりよいフィードバックの方法を考え、自律した学習者を育てたい。

なお、「内容のまとめ（五つの領域）」ごとに、観点別に評価規準を作成するが、その例は次頁の表 11.2 の通りである（国立教育政策研究所、2020）。その上で、単元の目標と評価規準、指導と評価の計画を作成し、授業を行い、観点ごとに総括するというのが主な流れである。

表 11.2 内容のまとめりごとの評価規準（例）

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------------|--|---|--|
| 聞くこと | [知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取る技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されたものを聞こうとしている。 |
| 読むこと | [知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたものの意味を分かろうとしている。 |
| 話すこと「やり取り」 | [知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。 |
| 話すこと「発表」 | [知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。 |
| 書くこと | [知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、大文字・小文字の活字体を書く技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のことおよび身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、書いたりしている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。 |

引用文献

国立教育政策研究所(2020)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』